

議長定例記者会見の概要 (9月定例会)

日 時：令和4年10月7日(金)
10時45分～11時15分

場 所：議長応接室



【9月定例会を終えての議長所感】

(中野議長)

お集まりいただきありがとうございます。

一年間に4つの定例会がありますが、この9月定例会が、36日間ではありますが一番長丁場であります。

今回は、開会の前日に副議長が辞任し、そして、若手で新進気鋭の二見副議長が誕生するということからスタートしました。

会期中には台風も発生しましたが、そのようなこと等を踏まえて追加の補正予算も組み、全ての議案について、原案のとおり可決しました。また、今回は、決算審査も行いましたが、これらについても認定ということになりました。

代表質問と一般質問もありましたが、それぞれ丁々発止の質疑応答がされたと思っ
ているところです。

意見書は6件可決され、その中には、台風被害への対応に関する意見書も含まれて
おります。要は、一日も早く、激甚災害に指定されることを願っているところです。

コロナ禍の中であり、県内の警報レベルは医療警報に変わりました。新規感染者数に
ついて、以前の感染者数がとても多かったので現在は少なく見えますが、まだ警戒す
べき数字であるという認識です。

今は10月ですが、11月定例会は間もなく始まります。それに向けて、我々議員は一生懸命研鑽、努力をして、執行部と丁々発止の議論ができればと思っていますところです。

【新副議長の就任あいさつ】

(二見副議長)

改めまして、今回、副議長に就任いたしました二見康之と申します。よろしくお願いいたします。

今、議長から今定例会についてお話がありましたが、会期中に台風災害が発生し、17年前の非常に大きい被害があった、あのときの記憶がよみがえる被災だったと思います。

しかし、これまでに対応してきたインフラ整備など、それらの効果があらわれたのではないかと感じるところです。

現在、防災・減災対策についても常時進めています。この重要性、効果というものをしっかり我々も検証しながら、今後につながるような県政への提言、意見ができるような運営に努めていきたいと感じたところでした。

執行部も物価高騰等について早急に対策を行うということで、今回、追加の補正予算が提案されました。県民生活を第一に考えながら県政を運営していくということでは、執行部も、そして議会も、思いを一つにして乗り切ってきたこの9月定例会ではなかったかと思います。

議長を今後もしっかり補佐しながら、県民のための県政運営に努めていこうと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

【質疑応答】

(宮崎日日新聞)

今回の9月定例会は、最初に前副議長が辞任されて、副議長選からのスタートでしたが、前副議長の辞任に対する所感をお聞かせください。また、9月定例会を終えて、どういう議会だったかの所感も併せてお聞かせください。

(中野議長)

開会日の前日、朝8時半に、突然辞表を私に持ってこられました。突然のことでしたから、彼に辞任の理由などを聞くこともありませんでしたし、その後もしませんでした。

調べてみたところ、二見議員の副議長就任は42歳3か月で、戦後でははずば抜けて若い就任ということです。

正副議長の平均年齢がかなり下がりました。なので、我々正副議長は非常に若返ったという雰囲気、この36日間を過ごすことができました。

(二見副議長)

私も、一身上の都合と伺っております。議員本人の出处進退の決断は、非常に重いものがあると感じているところです。

詳しい内容については承知しておりませんが、その後任に選任いただいたということについては、宮崎県政の大事な職責の一翼を担うことになりましたので、その責任の大きさを非常に痛感しています。

正直、最初の頃はどのようなふうにしていいのかわからないようなときが数日続いた

のですが、少しずつ慣れてきたというか、なじんできました。その中でも、いろいろと事務局職員の皆さんにも支えられながら、また、執行部の皆さんにも丁寧な対応をいただきながら、この9月定例会を進めていくことが出来たのかなと思います。

また、宮崎県議会の全ての会派の方々とも、一緒になって同じ方向を向いて進んでいこうというところについては、協調がある程度とれたかと思います。

そういう意味では、スムーズな議会運営ができるように、これからも努めていこうと思うところです。

(西日本新聞)

今回、知事選を前にして、知事の政治姿勢についての質問が多かったように思います。過去の論戦と比べて、今回の論戦がどうだったかということについてお伺いします。

(中野議長)

今回は知事の政治姿勢についての質問が多かったということですが、いつも多いです。知事は知事として、直接選挙で選ばれています。強大な権限を持っていますし、予算の範囲内とはいえ、巨額のお金を管理運営するわけですから、そういう人の政治姿勢次第で、いろいろと変わってきます。民主主義の世の中ですから、民主的に運営されていることはもちろんですが、その辺をきちんとチェックするのが我々議会としての立場ですから、知事の政治姿勢を追及する質問は、今回に限らず毎回行います。

大体、質問者の半分以上は、質問の項目に「知事の政治姿勢」ということは入れております。私も、過去何十回と質問しましたが、「知事の政治姿勢」という項目は、ほとんど入れております。

(二見副議長)

御存じのとおり、知事はすごくスマートな方なので、色々な話をしているときに温度がなかなか伝わりにくいのかなと、ずっと感じています。

だからこそ、知事がどういうことを考えていらっしゃるのかを引き出すために、知事の政治姿勢という質問がどんどん出てくるのだと思います。今、議長がおっしゃったように、別に今回が特別多かったということではないのかなと思います。県政を運営していく上で、その都度必要なことを、議員の皆さんが質問されているのだと、私は認識しております。

知事がどこに力点を置いているのかなど、本当に大事にしてるところを我々も県民の方々にもしっかり伝えなければならないし、しっかり県政が動いていく方向性を見極めないといけないと思います。ですので、知事の政治姿勢に対する質問の重要性はこれからも変わりませんし、質問も続いて出てくるのではないかと思います。

(西日本新聞)

普段からそういう質問は出ているということですが、今回、知事選を控えているということで、以前にも増して追及が厳しかったという印象はないのでしょうか。

(中野議長)

知事は官僚出身ですから、答弁がうまいです。例えば、防衛や外交に関する質問については、「国の所管事項」と答弁します。知事は権限の範囲内で答弁しているということでしょう。ただ、知事が防衛や外交に関して発言したとしても、国の所管事項なので

その通りにはなりませんよね。発言する他県の知事もいますが、それは国とは反対の立場が多い方だからでしょう。本県の知事は防衛協会の会長でもあります。その発言をなるほどなと思いながら聞いています。

(二見副議長)

所管事項とそうではないことと、答えられる範疇というものはあると思います。

質問するなどしたら、ちゃんとこちらの意図を酌んで答えてほしいという思いはあったとしても、知事には執行機関としての責任があるでしょうから、その範囲は非常にきっちりと分けられています。そこはよく理解されていると思います。

ですので、会議の場だけでなく、ほかの場面でも聞いてみることも、一つのコミュニケーションのとり方じゃないかなと思います。知事にも本音、言いたいこともあるでしょうから、それはまた別の機会に聞くこともできるのではないのでしょうか。

(宮崎日日新聞)

知事選に関連して、過去の東国原県政を踏まえて今回の知事選はどのようになるか、所感をお聞かせください。

(中野議長)

選挙戦がどうなるかはわかりませんが、ただ、厳しい選挙になることは想定されますね。自民党の立場から言うと、推薦した以上は、しっかりやらないといけないと思っています。構図としては、元副知事と元知事の戦いですから。そこだけ見れば面白い構図ではありますね。

(西日本新聞)

東国原氏は、最近、えびの市や都城市を回ってらっしゃいますが、前回、東国原氏が出た選挙との違いは感じられますか。

(中野議長)

前回、東国原氏が出た選挙では、自民党は持永氏を推薦していましたが、東国原氏の活動は全く見えませんでした。都会の人というか、有名人は違うのだなと思っていました。开票速報で東国原氏に当確が出たときは、間違いではないかと思ったほどです。

そのときは、我々では全然動きが見えないのに、さすがマスコミは事前の調査をされて、当確を出したのだなと感心しました。

最近、東国原氏がえびの市に来ているということですが、議会中だったからかもしれませんが、私は一度も会っていません。

前回、姿が見えなくても当選しました。彼の選挙活動は見えませんが、今回は頻繁に回っているということであれば、今回はどうなるのでしょうか。よくわかりませんが、現職も後援会活動が活発になってきていますから、本腰を入れてきたということでしょうか。

(二見副議長)

東国原氏は知名度がありますからね。現職は現職としての知名度がありますが、東国原氏の場合は芸能界での活動をしながらでの知名度があるので、見ていると、有権者の方々の反応が違うのかなと思います。どこかその辺りにいても、人だかりが出来るなど

目立ちますもんね。

それが投票行動につながるかと言ったら、つながることもあるかもしれません。有権者の方々は、そういうことで県政というものを考えてるのかなとも思います。私もつかめないです。

都城市出身の方なので、私たちの周りでも、東国原氏の同級生の方など昔からの付き合いがある方々が盛り上がっているということは、確かに聞こえてはきますが、どこが何をしているということは全然わかりません。

どこに行っても、「東国原さんだ」という認識はされるのでしょうか。

(読売新聞)

今回の知事選は注目度も高いですし、ほかにも出られるようですが、お互い知事経験者でもありますし、かなり具体的な県政に関する論戦であったり、これまでの評価だったりが出てくるかと思われませんが、県議会の立場からこの論戦に期待することはありますか。

(中野議長)

選挙戦になれば、正々堂々と意見を出していただくことになるでしょう。できれば、選挙前に公開討論会があって、質問に回答していくというものを見られれば、各候補者の方向性も見えて面白いかなと思います。

(二見副議長)

やはり、県政の今後の将来のビジョンというものを有権者に話しながら、選挙戦というものは出来ていくんだろうなと思います。その辺りは、マスコミの皆さんがどのように取り上げていかれるのでしょうか。何が違うのかななどを、どう県民に伝えていくかですよね。

今、議長がおっしゃった公開討論会は、同じテーマについて同時に話ができるので、とてもわかりやすいものではないかと思います。そのような討論会だけではなく、いわゆる座談会や自分の報告会みたいなものなど、手段はいろいろあると思うので、そういったものを、それぞれの候補予定者の方が戦略として考えながら取り組んで、訴えていけるんだろうなと思います。

できる限り、どんどん盛り上がっていくことがいいですよ。関心を持ってもらわないといけません。投票率が低いことが、ここ数年の宮崎の課題なので、危機意識を持っています。

(西日本新聞)

先日、議長は国葬儀に行かれたと思いますが、その所感をお聞かせください。

(中野議長)

厳かで、非常に感動しました。安倍元首相が国際的リーダーだったんだということを再認識しました。御苦勞さまでしたという気持ちを込めて、献花いたしました。

翌日の新聞では、一般の方々の献花も非常に多かったという記事を見たので、それだけ皆さんの関心があり、お疲れ様でしたという気持ちがあったのでしょうか。